

## 日本赤十字社 診療放射線技師会

### 第12回中部ブロック業務研修会 オンライン(ハイブリット型)福井開催について

令和4年9月3日(土)、第12回 日本赤十字社 診療放射線技師会中部ブロック業務研修会を、Zoomミーティングを用いたオンライン(ハイブリット形式)開催しましたので報告します。

今回の研修会は、メイン会場(福井)、サテライト会場(6施設)、各会場で参加および、個人参加によるオンライン形式ハイブリット形式とし、参加者は、17施設から、112名の参加がありました。オンライン(ハイブリット形式)開催でしたが、従来の会員発表、特別講演、専門部会できるように、Zoomブレイクアウトルーム機能も駆使した上での開催ができました。

日本赤十字社診療放射線技師会 正者会長挨拶に始まり、会員発表は5施設から8演題、特別講演として、福井赤十字病院 脳神経外科部長 西村 真樹先生による「**脳卒中治療 Update-脳梗塞治療の変遷-**」のご講演がありました。脳梗塞治療の最新の話題情報の話や、我々診療放射線技師に求められるお話もあり、大変興味深い講演内容でした。

専門部会では、一般撮影部門、CT部門、MRI部門、放射線治療部門、代表者部門の5つに分かれたブレイクアウトルームで、事前アンケートの結果をもとに、情報提供、ディスカッションが行うことができました。活発な話し合い、意見交換となった専門部会もあった様子で、時間切れとなってしまった専門部会もありました。

例年以上の多数の参加をいただき、施設を超えて交流を深めることができた有意義な研修会であったと思います。

最後に、今回の開催に当たりまして、格段のご尽力をいただきました サテライト会場のスタッフの皆様、そして本研修会の運営に携わってくださった皆様、さらには会場の設営にご協力下さった皆様の初め、多くの関係者の皆様がこの場をお借りしまして心より感謝を申し上げます。





会員発表



質疑応答



特別講演



サテライト会場



特別講演

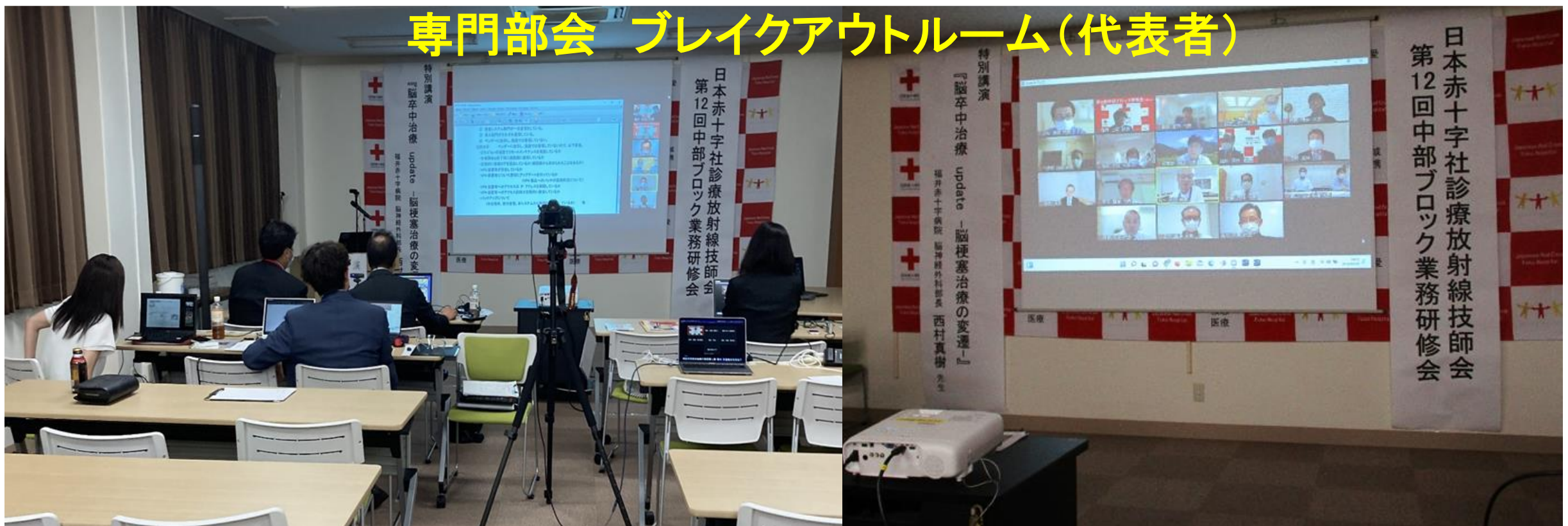
## 専門部会 ブレイクアウトルーム(MRI)



## 専門部会 ブレイクアウトルーム(治療)



## 専門部会 ブレイクアウトルーム(代表者)



## 第8回中部ブロック技師長・責任者会議 報告

2022年11月

2022年11月10日、11日の2日間、伊勢赤十字病院と伊勢シティホテルにおいて第8回中部ブロック技師長・責任者会議が開催された。以下、概要について報告する。

11月10日

13:10～ 院長講演 「チーム活動と病院の活性化について」

座長 伊勢赤十字病院 釜谷 明

講師 伊勢赤十字病院 院長 楠田 司 先生

現在、医療の高度化や複雑化そして地域での医師不足問題、年々強くなる医療サービスの向上を求める国民の声を受け、安全で質の高い医療の効率的な提供に資するチーム医療体制の必要性が求められる。医師あるいは医療の確保のために病院経営の効率化が取り上げられ、医師業務の見直しと他職種の活用が謳われている。具体的には他職種への業務移行、チーム化の必要性等が指摘されているが、この医師対策は、早急に解決しなければならない大きな課題となっている。



今回の本題であるチームとしての活動が当院の病院運営にどうかかわっているかを課題も含め述べられた。具体的には「研修センター設立」「TQM活動」「チーム医療の取り組み」「働き方改革の対応」などである。特に医師の負担軽減対策については「整形外科チームへ専従内科医師の投入」「放射線読影医師の自宅に読影装置の設置」「フレキシブルな働き方の提案や医療者用コミュニケーションアプリ Join の活用」「専門研修 5 年未満の若手医師でも SCU 当直を可能とした当直医の実質的増員の推進」「外来化学療法チームでの薬剤師外来の活用」「ICT チームでの抗 MRSA 薬血中濃度測定と投与量の決定権限の付与」「持参薬継続内服の可否の決定」「薬剤溶解液の適時変更の権限付与」「主治医を介さない疑義紹介時の対応」「放射線技師の透視、内視鏡検査時の常時介入」などを挙げ、チーム活動を含めたタスク・シフト/シェアの例を具体的に述べられた。今後も医師の働きやすい環境整備を進めなければならないとのことであった。

最後に診療放射線技師の地域連携として、かかりつけ医への協力体制である「放射線安全管理ネットワーク」の活動についてもご紹介いただいた。チーム医療の推進は働き方改革にも一定の効果があり、今後も様々なチーム活動を進めていきたいと述べられた。

14:10～ 会長講演 「大型医療機器共同入札事業について」

座長 伊勢赤十字病院 林 奈緒子

講師 日本赤十字社診療放射線技師会 会長 正者 智昭 先生

日本赤十字社診療放射線技師会の正者智昭会長から「大型医療機器共同入札事業について」と題してご講演いただいた。内容は、第58回日本赤十字社医学会総会での第4回赤十字購買フォーラム「大型医療

機器共同入札事業の推進～他組織との共同事業～」での議論を、本会議の参加者とも共有する形で進められた。

まず共同入札おさらいとして、赤十字グループ全体の経営の安定化を図るべく健全な財政基盤の構築を行う必要があると述べられ、経営状況の推移が示された。次に共同入札の概要と総合評価落札方式について、事業全体のスケジュールの説明がなされた。共同入札全体の参加状況と実績の推移が紹介され、そこでは「全ての施設において参加を強く推奨する」という基本方針に言及された。現場からみた共同入札として、機種選定を適正な判断で行うことができれば、病院の機能、診療科の機能に合った無駄のない効率的な機器購入が可能となる、その「適正な判断」のために分析、利用するデータの例を説明していただいた。また、経営側（事務部）と現場（医療技術者）の情報共有と中長期的な更新計画作成には、些細なことでも聞けるお互いの信頼関係が必要であると述べられていた。



最後に、本社常設委員会・部会の関連図の提示があり、技師会が参画しているものとして医療の質向上委員会のチーム医療の推進に関する検討部会、医療安全対策部会、グループ共同事業推進委員会の購買専門部会の説明があった。技師会の役割として、共同入札の参加施設や他病院グループの経験事例の情報収集と共有、総合評価落札における適正な技術的評価を挙げ、赤十字グループにおける連携と達成感の共有であると述べられ、会長講演を終了した。

#### 14:30～ 議題「当院の取り組みについて」

座長 伊勢赤十字病院 林 奈緒子

##### 3 施設発表

金沢赤十字病院 中川 亮二 先生

高山赤十字病院 畑中 信吾 先生

伊豆赤十字病院 土田 真嗣 先生

「当院の取り組みについて」は、本会議が発足した当初から行っている企画であり、集合形式で行っている年では毎回3施設からご紹介いただいている。今回は、金沢赤十字病院、高山赤十字病院、伊豆赤十字病院から、それぞれの取り組みの発表があった。

金沢赤十字病院の中川亮二技師長より「画像診断報告書の見落としを防止するための取り組み」

放射線診断医が作成した画像診断報告書を、検査依頼した診療科医が十分に内容を確認しなかったため、治療の遅れが生じた「見落とし事例」の報道が続き社会問題になっている。また R4 年度の診療報酬改定では、「画像診断情報等の適切な管理による医療安全対策に係る評価」が新設された。このような背景をふまえて、金沢赤十字病院での画像診断報告書の見落とし防止対策を紹介していただ

いた。大まかな流れとしてまずは、主目的の臓器以外にも異常所見があり、見落としの可能性があると放射線科医師が判断した場合、フラグを立てる。その例に対しカルテを参照し他臓器への対応があるかを確認する。なければ医療安全推進室の介入対応としてマークする。室長が 1~2 週後に再確認して、必要であれば検査依頼医に対応を促すというものである。実績の報告もされ、ある 6 ヶ月で全読影レポート件数：3679 件、フラグの立った件数：92 件、医療安全推進室介入事例：13 件、対応確認 8 件、残りの 5 件は現在進行中と転院してしまつた事例とのことであつた。問題点と今後の課題として、最初の放射線科医のフラグがないことには何も起こらないこと、依頼医へ伝達しても対応が遅れるケースもあること等をあげ、ハード面も含むより良い方法を検討していき、「報告書確認管理者」として医療安全推進室と協力していくと述べられていた。



高山赤十字病院の畑中信吾統括課長より「MRI 装置酸素ボンベ吸着事故について」

高山赤十字病院で休日の昼間に発生した MRI 装置酸素ボンベ吸着事故に関して、概要と事故後の対応をまず報告していただいた。さらに、部門内で行つた事故分析と立案した再発防止対策の紹介があつた。今回の事故分析の手法としては「PmSHELL」を用いていた。時間の都合上その詳細を聞くことはできなかったが、今後取り入れるヒントになつた施設もあつたと思われる。再発防止策として、チェックリストの見直し、救急時 MRI 検査ワ

ークフローの見直し、救急外来混雑時の応援体制、MRI 室の施錠、磁性体探知機の設置と運用などの紹介があつた。また MRI の安全性についての職員への啓蒙方法については、各施設で工夫されているようであつた。強い磁場への磁性体持ち込みの危険性を訴えるにはやはり動画を用いるのが良いとの意見が会場からも挙がった。休日の昼間に発生している点も合わせると、発生要因は多くの施設で共有されるものであり、安全体制の構築にむけて認識を強く持つことができた報告であつた。



伊豆赤十字病院の土田真嗣課長より

継続的な医療の提供を目指し、技師業務以外にも様々な活動を行っており、それらを紹介していただいた。小規模施設は役割ごとに専従者を配置することが出来ない故の活動であるが、大規模施設では役割がどうしても縦割りになりがちである。病院の規模に関わらず、技師の活動範囲を広げる参考となる紹介であった。高額医療機器共同利用の初回時説明訪問では、事務系担当者ではなく本職である技師が訪問することで、様々な質問にその場で対応でき、また先方の医院とも顔の見える関係を築ける点が有意義である。自治体事業である骨密度検診への参加は、準備段階から本来の担当部署と協力し契約や請求も担っているとのこと。10年ほど経過した現在では、医療社会事業部と協働し、検査と検査結果の入力以外は担当してもらっているとの報告であった。情報システム系の運用・管理では、専任者を配置するには採算が合わないという状況から、病院のネットワークが PACS をベースに構築している背景もあり、放射線部門や総務課から兼務しているとのことであった。遠隔読影の依頼と報告書取得、紹介画像の取り込みも放射線部門が主体となっている。今後の予定としては、低線量胸部 CT 検診、脳ドック、DWIBS 検診を計画しているとのことであった。職員数の増大を抑えるべく出来ることを協力し合い、また本来の業務も増やしていけるよう考えていきたいと述べられていた。

16:00～ アンケート報告 テーマ「タスク・シフト/シェアについて」

進行 伊勢赤十字病院 小林 篤

アンケート報告では、「タスク・シフト/シェア」について昨年に引き続き各施設に事前アンケートを行い、17施設より回答を頂き集計を行った（回答は複数選択可）。昨年のアンケート実施から今回のアンケート実施までの間に告示研修が実施され、具体的なタスク・シフト/シェアの内容や手技が明確になった。

アンケート結果によると、昨年は静脈路の確保から薬剤投与・抜針・止血までを行う予定であると回答した施設が2施設にとどまっていたが、今年は5施設まで大幅に増加した。また、確保された静脈路から薬剤投与・抜針・止血まで行う予定があるとの回答は5施設あり、今後積極的に取り組んでいこうという考えが見受けられた。一方、予定なしと回答された施設は8施設あった。





「当院におけるタスクシフト、タスクシェアの現状」として、愛知医療センター名古屋第二病院の桑原技師長に現在の取り組み状況や、今後の予定について紹介していただいた。名古屋第二病院では、既に体制を整え診療放射線技師による穿刺業務を行っており、今後は診療放射線技師のインストラクターを育成し、そのインストラクターの指導の下、穿刺業務の習得を目指して行き、今年度中に救急CTにおける造影剤の投与業務は診療放射線技師に完全移行する予定であるとのことであった。



赤十字病院全体では、共通の理念を持ちつつも、各施設の規模や技師人数により将来のビジョンや組織運営方法が異なり、他のメディカルスタッフとの協働体制を整え「タスク・シフト/シェア」を進めて行くこととし、このアンケート報告のセッションを終了した。

11月11日

9:00～ 特別講演「キャリアデザインについて」

座長 伊勢赤十字病院 小林 篤

講師 鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部 放射線技術科学科 教授 武藤 裕衣 先生

特別講演では「キャリアデザインについて - 多様な人が活躍し、多様な価値観を醸成できる職場にむけて - 」として鈴鹿医療科学大学の武藤先生をお迎えして講演をいただいた。武藤先生は鈴鹿医療科学大学を卒業され、これまでに教育現場のみならず、学会活動や技師会活動、一般臨床などの幅広い分野で活躍されている。それらの経験を踏まて、少子高齢化を背景に、女性の晩婚化による育児や介護の両立を目指したキャリアデザインや、多様な働き方や職場環境に対応したキャリアデザインについて述べられた。

キャリアデザインの方法として「自分がやりたいこと」「既にできること」「やらないといけないこと」の Will-can-must に分類することをあげられた。フレームワークで物事を考えることにより、未来や過去の話が混在せずに現在の内容を整理でき、それぞれの要素を最大化できるように、チャレンジする順番を考えることができるとのことであった。

自分の価値観を知るワークでは、実際に自身の過去のキャリアを書き出し、それぞれ「専門家」「リーダーシップ」「仕事とプライベートの両立」「社会貢献」「創造発想」に分類し自己分析を行った。

最後に、管理職の皆様へのコメントとして、“管理職層の意識が、成功のカギを握っている”とお話しいただき特別講演を終了した。



## 10:20～ 総合討論「働き方改革について」

進行 伊勢赤十字病院 谷貞 和明

総合討論に先立ち、進行の谷貞より導入講演を行った。内容は大きく分けてふたつで、ひとつ目は厚生労働省パンフレット「働き方改革～一億総活躍社会の実現に向けて～」を基に、働き方改革の全体像について確認を行った。「働き方改革」の基本的な考え方は働く方々が個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方を自分で選択できるようにするための改革であること、その実現のためには職場の管理職の意識改革も必要であることを確認した。ふたつ目は事前アンケートの結果を公表した。結果は施設規模等の違いもあり様々であったが、家庭環境への配慮にどう対応していくかが気になるようだった。



討論では育休明け・時短勤務終了者の当直業務への配慮について議論が行われた。技師一人一人の家庭環境が多様であるため、一律の規定で行うことが難しいことが挙げられた。技師数が多い場合は、家庭環境に配慮した対応をとった場合においてもその他の技師にてカバーすることも可能であるが、技師数が少ない場合には対応が厳しくなることも挙げられた。この問題は、管理者や年配技師の対応に関しても同様で、管理者自身も当直業務へ参画し合間をぬって管理業務を行っていることもうかがえる。配慮する具体的な事項を規定として作るのではなく、個々の状況への配慮を決定するプロセスを規定として作成し、適宜改定していくとよいのではという意見があがった。

予定いっぱいまで時間を使ったが、アンケート内容からうかがえる働き方改革について討論すべき問題についてのほんの一部しか討論出来なかった。しかし、普段なかなか話し合うことが困難な他施設での状況やどのように考えて配慮を行っているか等を共有できたことは意義深かったと考える。

## 11:30～ 中部ブロック連絡会議

### ● 中部ブロック技師長・責任者会議関連

資料より技師数、病床数の確認を行った。開催予定順序については変更なしで承認された。

副代表は本会議開催施設の責任者が担当する事を確認し、令和5～6年度代表は名古屋第二病院の有賀英司氏、令和5年度副代表は浜松赤十字病院の佐々木昌俊氏、令和6年度副代表は福井赤十字病院の西村英明氏となった。

### ● 日本赤十字社診療放射線技師会中部ブロック業務研修会関連

資料より開催予定順序については変更なしで承認された。

ブロック理事・ブロック委員の担当グループの確認をし、令和5～6年度のブロック理事・ブロック委員は本年度から引き続き以下の通りとなった。

ブロック理事：名古屋第二病院 有賀英司氏  
ブロック委員：金沢赤十字病院 中川亮二氏  
諏訪赤十字病院 小沢広行氏

#### 中部ブロックの備品について

令和 4 年度中部ブロック業務研修会を WEB 開催するに当たり、資機材を日本赤十字社診療放射線技師会中部ブロックの予算にて購入している。2022 年 11 月時点で福井赤十字病院にて管理台帳を作成し保管および管理されている。管理台帳作成は本部からの指示で、台帳は本部に提出済みである。運用に関しては現状行っていることを継続する事で承認された。その他、予算の運用についての意見は特に上がらなかった。

以上